

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に、ICTを活用して取り組む。

ア 授業シラバスを基に、授業アンケートを効果的に活用し、本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

※授業アンケートの総合評価の肯定評価(平成 25 年度:75%)を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度末には 90%以上をめざす。

※学校評価アンケート「施設・設備等の学習環境」の肯定評価(平成 25 年度:81%)を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度末には 90%以上をめざす。

※ICTを活用した授業を実施した教員の割合(平成 25 年度:13%)を平成 28 年度末には 70%以上をめざす。

(2) 教員研修と公開授業(研究授業)の充実を図る。

ア アクティブラーニング型の公開授業を年 1 回は実施し、それ以降は複数化を図る。

※教職員による学校評価の校内研修に関する肯定評価を平成 28 年度には 80%にする

※教科を超えた公開授業(研究授業)の参加者数(平成 25 年度:全体の 30%)を毎年 10%引き上げ、平成 28 年度には 60%にする。

イ 効果的なオリジナルテキスト教材の教科・科目を拡充する。

(3) 自学自習の徹底を図る。

ア 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活動をスムーズに連動させて学力を向上させる。

イ 放課後学習会、長期休業中の講習会などの内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う。

※学校評価「学習会・講習会」の肯定評価(平成 25 年度:75%)を平成 28 年度末には 90%以上をめざす。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を確立する。

ア 総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3 年間を見通した計画への改善に取り組む。

※学校評価「体験授業や授業以外の学習機会」の肯定評価(平成 25 年度:74%)を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 90%にする。

※学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価の肯定評価(平成 25 年度:77%)を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度末には 90%以上をめざす。

イ 外部講師を総合的な学習の時間や LHR において積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。

※学校評価アンケート「外部講師を招聘し講演や様々な体験授業や授業以外の学習の機会が多い」の肯定評価(平成 25 年度:58%)を平成 28 年度末には 80%以上をめざす。

※難関大学合格者(平成 25 年度:国公立大学合格者数 152 名、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計 35 名)を平成 28 年度までに国公立大学合格者数 180 名以上、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計 50 名以上(京大合格者数 10 名以上)に引きあげる。

(2) 英語運用能力を向上させ、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

ア 放課後の校内留学(英会話)への参加を促し、英語に対する学習意欲を増加させる。

イ おおさかグローバル塾への応募者数・合格者数を学内掲示や説明会により増やす。

ウ 語学研修の機会を拡大し、生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。

※海外語学研修[英国オックスフォード]の希望者(平成 25 年度:20 人)を毎年 10 人引き上げ、平成 28 年度には 50 人にする。

※留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合(平成 24 年度:65%)を、平成 26 年度は 70%以上に、平成 28 年度には 75%以上にする。

(3) 地域関係諸機関との連携、高大連携について協議し、推進する。

ア 大阪大学 IRIS(国際教育交流センター)と提携し、留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。

イ 立命館大学との提携による高大連携推進協議会による事業を開始する。

ウ 保護者、地域関係者に対する生徒校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

※学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価(平成 25 年度:34%)を毎年 5%以上引き上げ、平成 28 年度には 50%以上にする。

3 安全・安心な学校のための体制の確立

(1) 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる。

※学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価(平成 25 年度:70%)を毎年 10%以上引き上げ、平成 28 年度には 90%にする。

(2) 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。

ア 学校行事の HP での紹介、学年だよりを充実させる。

(3) 生徒理解の促進と安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。

ア 学校保健委員会・安全衛生委員会を定例化し充実をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校関係者評価
<p>教職員による回答 (89/90 回収率 99%)</p> <p>【教育目標・教育方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と同様「他の学校にない特色ある教育活動を展開している」に対して否定的な評価が高いことについては、私学としての関西大倉の取組みの独自性を打ち出す必要がある。 <p>【進路指導・生徒指導等(教職員関係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員は、生徒が相談したときには、親身に応じている」、「教員は、生徒の教育に熱心に取り組んでいる」を高く評価しており、保護者にも支持されている。「進路にかかわる連絡や情報をきめ細かく提供している」についての、保護者との評価の差違は、情報の共有が不足していると考えられる。 ・「生徒が意欲的に取り組むような教育課程の工夫」については、次年度以降、里山を活用した環境教育や ICT 教育やグローバル人材の育成のための取り組みを早急に充実する必要がある。またキャリア教育を軸とした進路学習のさらなる推進や各行事への保護者への自由参加などの機会をより増やす必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校外学習、宿泊行事などの中で、生徒が主体的に取り組む活動が多い」と回答した教職員が 46%にとどまった。生徒の自主的活動の向上に向けて、全教職員による創意工夫が必要である。 ・「地域との交流」の肯定的評価は 23%しかなく、より積極的な取り組みが必要である。 <p>【施設・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施設・設備」の拡充に対する、満足度は過半数程度であり、早急な改善が求められるところである。 <p>保護者による回答</p> <p>有効回答数 588 (1 年 261・2 年 191・3 年 136 回収率 38% 昨年度 40%)</p> <p>「よく当てはまる」と「ほぼ当てはまる」という肯定な意見が 90%を超える項目が 35 項目中 4 項目あった。中でも「教育目標・教育方針・教育指導に共感できる」と評価した保護者は 92%で、続く「誠実でやさしさと活力あふれる生徒を育てようとしている」が 88%の支持を得ていることから、本校の建学の精神が活かされていると思われる。また、保護者への連絡の点も高評価をえているところから、引き続き迅速かつ丁寧な対応を心がけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方、否定的な数値が比較的高い項目としては、「他の学校にない特色ある教育活動を展開している」、「進路にかかわる連絡や情報をきめ細かく提供している」、「生徒会や委員会活動は活発である」、「生徒と保護者と地域の人たちが交流する機会が設けられている」等があげられている。 	<p>第 1 回 (5/10) 第 2 回 (10/11)</p> <p>【教育目標・教育方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流など色々と取り組まれています”見える化”ができていないような気がします。積極的に PR されてはどうでしょうか。 ・「文武両道」を基礎に「グローバルリーダーの育成」にも力を入れるべき。 ・生徒自身が積極性を持ち「自ら動く」意識を高められるような機会が必要である。 ・東大・京大・一橋・早稲田・慶応の進学者数を増やすことも必要。 ・国公立進学とともに難関私大の受験指導にも力を入れて頂きたい。 ・関西大倉の特色を聞かれて「勉強も部活も頑張れるところ」と答えていますが、もっと独自色を出しても良いのではと思います。 <p>【進路指導・生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査だけではなく、高校 1 年次より一歩踏み込んだ指導を検討して欲しい。生徒同士が進路について話し合える機会を与えてはどうか。 ・卒業生に学部・大学院の魅力を語ってもらう機会をもっと頻繁に行えばよい。 ・社会・地域との関わりが持てるように、外部講師の招聘や職業体験のような時間を増やし社会的視野を広げて欲しい。 ・教員から生徒に歩み寄り生徒の能力を伸ばす教育をブラッシュアップしてどうか。 ・先生方への質問はいつでもどこでも気持ちよく教えて頂いている。 ・苦手な教科からの立ち直りが上手いかず理解できていない状態がある。 ・先生方の熱意のこもった指導と生徒達の受け取りとの間には、温度差が少しあるように思う。 ・授業の進度など一貫性を持たせ、わかりやすい授業の取り組みをお願いしたい。 ・礼儀正しく挨拶もよくしてくれます。 ・生徒の登下校（駅とバス停の間）のマーに対する指導が必要。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然を活用した環境教育は興味深い。「里山の環境整備」に教職員・生徒・保護者、地域の人たち(小中学生も含め)もかかわった方が良い。 ・英語の楽しさを知るために海外研修に連れて行って欲しい。 ・緊急連絡はこまめに連絡して頂くと助かります。 ・行事など保護者同士の親睦の機会がもっとあればと思います。 ・学校アンケートは子ども達の意識や現状がわかるのでとてもありがたいです。 <p>【施設・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドホールの宿泊施設を充実させて、クラス・クラブ 合宿を頻繁に行ってはどうか。 ・「本校の施設・設備は、学習環境の面で充実し満足できる」の教職員の自己評価の否定的評価が 50.8%と過半数を上回っているところが気になります。特にハード面は外部との比較のされやすいところなので整備につとめることが必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートの効果的活用 イ ICT を活用した授業について研究と実践。 (2)教員研修充実 ウ アクティブラーニング型授業の開発 エ オリジナルテキスト教材の拡充 (3)自学自習の徹底 オ 放課後学習会、講習会などの充実</p>	<p>ア・本校の生徒実態を踏まえ、3年間を見通した学習到達目標の点検を行う。 ・小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションなどに対する評価の研究を行う。 イ 高校3年生棟各教室・理科実験室に電子黒板機能付きプロジェクターを設置して、ICTを活用した授業の研究と実践を進める。 ウ 実践的なアクティブラーニング型のワークショップを教職員自ら体験して、その手法を学び教科活動に取り入れていく。 エ 地歴・公民科をはじめとしてオリジナル教材の共有化を進める。プリント教材を冊子として保管・整理の利便性につとめる。 新入生オリエンテーション(4月)に生徒会主催による文化部祭、運動部ツアーの実施を計画する。 オ・放課後学習会を1学期中間考査終了後、生徒の要望を踏まえて拡充する。 ・大学別・CTレベルなど受験校に対応した講座を細分化する。</p>	<p>ア 生徒授業アンケートの肯定評価を平成26年度には80%以上 イ・ICTを活用した教員の割合を50%以上 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価を平成26年度には70%以上 ウ・教職員による学校評価の「校内研修」に関する肯定評価を平成26年度には70%以上 エ 地歴・公民科・英語科(高3授業)でオリジナル冊子を作成 オ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価を平成26年度には80%以上 ・高校1年時に英語・数学・国語を中心に基礎標準の学習会を開設 ・京都大学の二次対策講座を設定</p>	<p>ア 授業アンケートの総合評価の肯定評価79%(○) 次年度は85%以上をめざす。 イ・ICTを活用した授業を実施した教員の割合40%(△) 次年度は50%以上をめざす。電子黒板機能付きプロジェクター全教室に設置して、すべての教員が実践できる環境を整える。 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価80%(○) ウ・アクティブラーニング型の公開授業実施(2月) 教職員34名参加(◎) ・教職員「校内研修」に関する肯定評価60%(△) 次年度は70%をめざす。 エ 地歴・公民科の共通した冊子には至らなかった。(△) 次年度は共有化を推進する。他教科においてもオリジナル教材の共有化を進めながらデジタル教材の開発に取り組みたい。 オ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価78%(○) ・開設時期が二学期以降となった(△) 次年度は、教員体制に配慮して1学期中間以降の開設をめざす。 ・理科・社会において京都大学の二次対策が十分にできなかった(×) 次年度は直前ではなく、二学期以降の授業の中での取り組みを始める。</p>

<p>2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 志学、キャリア教育、人権教育を総合して行う指導計画の確立 ア 「総合的な学習の時間」と LHR 等の連携 イ 外部講師の積極的招聘 ウ 放課後の校内留学(英会話)への参加促進 エ 語学研修の機会の拡大 (3) 地域関係諸機関との連携推進(高大連携) オ 近隣の大学との高大提携 カ 生徒の自主活動を通して地域との交流</p>	<p>ア・総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3年間を見通した計画への改善に取り組む。 ・毎月の進路志望調査と個人面談により、高い志を維持する。進路志望に変更があった場合、時期を空けずに個人面談を行う。 イ 関倉版「学問体感(国公立大学教員による出前授業)」に関して、事前に生徒から希望アンケートをとり授業内容の充実を図る。 ウ・放課後の校内留学の開催曜日を増やし生徒が参加しやすい環境を整備する。 ・TOEFLiBT・実用英語技能検定試験のスコア・資格の取得に向けての対策を講じる。 エ・語学研修の機会を拡大し、事前・事後学習の充実を図りながら生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。 ・トビタテ!留学 JAPAN (平成 26 年度からの文部科学省による新規事業の応募条件などの情報を収集する。 ・おおさかグローバル塾への合格者/出願者数を学内掲示や説明会により増やす。 ・地元ローリークラブや各種留学機関と連携して、短期留学生の受け入れを検討する。 オ・大阪大学 IRIS (国際教育交流センター) と提携し、高校1年生次の総合学習での「日本文化の紹介」の留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。 ・大阪大学 NP0 アベックの説明会における体験談に触れることでグローバルリーダーに必要な素養として豊かな感性と教養を身につけさせる。 ・立命館大学との提携による高大連携推進協議会による事業を開始する。 ・教育基金の支援対象として APU キャンパス「異文化交流を体験しよう」(5月1泊2日)への参加を呼びかける。 カ・クラブ活動を通じ地域との交流を深める。 吹奏楽部 茨木特別養護老人ホーム演奏会(8月) 和太鼓部 茨木里山まつり(5月)、東村秋祭り(10月)、茨木市農業祭(11月) ダンス部 箕面まつり(7月) ソフトテニス部 ルーキーズカップ(12月)・萩村杯(3月)など中学生大会主催・運営 サッカー部 阪神サマーサッカーコンテスト(8月)・茨木・島本中高交流フェスティバル(10月)開催 ・古典芸能鑑賞会、情報プレゼン発表会、学園祭、体育祭などの生徒校内発表の場への保護者、地域関係者への参加呼びかけを拡大する。</p>	<p>ア・学校評価アンケート「体験授業や進路講演などの学習機会」の肯定評価を平成 26 年度には 70% 以上 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価を平成 26 年度には 80% 以上 イ・平成 26 年度「学問体感」参加生徒を年間 500 名以上 ・国公立大学合格者数を平成 26 年度には国公立大学合格者数 170 名以上、東大・京大・阪大・神戸大 40 名以上(京大 5 名以上) ウ・放課後校内留学の参加者数を平成 26 年度には 40 人 ・平成 26 年度には TOEFLiBT のスコア 60 取得 5 人/71 人以上 ・実用英語技能検定試験の各学年での準 2 級および 2 級の合格率を平成 26 年度には 70% エ・トビタテ!留学 JAPAN への出願者数を 5 人以上 ・おおさかグローバル塾への平成 26 年度には合格者 5/出願者数 8 人 ・短期留学生を 1 名受入 ・海外語学研修[英国オックスフォード]の希望者を平成 26 年度には 20 人以上 ・留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合を、平成 26 年度は 70% 以上 オ・アベックの説明会を平成 26 年度中に最低 1 回の開催 ・立命館大学 APU「異文化交流体験」(5月1泊2日)に最低 10 名参加 カ・学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価を平成 26 年度には 30% 以上</p>	<p>ア・学校評価アンケート「体験授業や進路講演などの学習機会」の肯定評価 79% (◎) 次年度はさらに外部講師の講演など機会を増やし肯定評価 80% 以上をめざす。 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価 81% (○) 次年度は肯定評価 90% 以上をめざし維持する。 イ・平成 26 年度参加生徒は 420 名にとどまった。(△) 次年度は広報の機会を増やし年間 500 名以上の参加をめざす。 ・国公立大学合格者数は過去最多の 173 名。(◎) 難関国公立大(東京阪神)の合格者数 33 名(△) 次年度は京都大学合格者 5 名以上をめざす。 ウ・放課後校内留学の参加者数 32 人 (△) 次年度は放課後の英会話指導のための外国人講師を増員し 2 小教室を確保する。 ・TOEFLiBT60 取得 7 人/71 人以上 (○) 次年度は TOEFLiBT 受験者を増やすために情報教室を拡充する。 ・実用英語技能検定試験の各学年での準 2 級および 2 級の合格率 60% (△) 次年度は放課後の対策講座を充実させ、70% をめざす。 エ・文科省主催のトビタテ!留学 JAPAN 説明会・業者説明会(1 月)に参加して情報を収集して各教室に掲示に対して出願者数 5 人 (◎) ・おおさかグローバル塾への合格者 4/出願者数 4 人 (○) ・フランスからの短期留学生 1 名を 2 週間受入 (○) ・海外語学研修[英国オックスフォード]には 19 人参加 (○) ・「留学したい(国際社会への関心)」の割合を平成 26 年度は 60% (△) 次年度は留学の説明会を実施し 70% 以上をめざす。 オ・総合学習「異文化交流(日本文化の紹介)」を拡充する。 ・阪大生 2 名の参加によるアベックの説明会開催(1 月) (○) 次年度に向けて校内掲示や説明会の拡充により出願者数を 10 名に増やす。 「異文化交流体験」14 名参加 (◎) 次年度は京都大学霊長類研究所との共同研究に参画する。 カ 学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価 30% (○)</p>
<p>3 安全・安心な学校のための体制確立</p>	<p>(1) 校内教育相談体制の充実 (2) 積極的かつ効果的な広報活動の実施。 (3) 安心・安全な学校体制の確立 ア 学校保健委員会・安全衛生委員会の充実</p>	<p>ア・カウンセリングルームの開設時間の延長や学校カウンセラーの複数化の検討など校内のカウンセリング体制をより一層充実し、必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。 ・警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信の迅速化をはかる。 ・産業医(学校医)、社労士と連携する。 ・雷探知機のグラントへの導入を検討する。</p>	<p>ア・学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価を平成 26 年度には 70% にする。 ・緊急メールの配信者を 2 人体制とし、相互確認も実施 ・学校保健委員会を年間 3 回 安全衛生委員会を毎月実施</p>	<p>ア・学校評価アンケートの「教育相談」の肯定評価 70% (○) 次年度は、校内カウンセラーの複数体制を検討する。 ・次年度は阪神電鉄社のミマモメの導入を計画し、加入率 100% をめざす。 ・雷探知機(赤色灯)を校内の 8 カ所に設置 (◎) 次年度は探知機発令中の避難場所の指示を明確にする。 ・学校保健委員会は年 1 回(9 月)のみ実施 (△) 次年度はテーマを設定し、学期に 1 回実施する。 ・学校評価アンケートの項目の検討</p>